



港区新橋 5-15-5 国鉄労働組合中央本部 03-5403-1640 発行人 松川 聡 編集責任者 瀧口良二 (組合員の購読料は組合費の中に含む)

月間 9・1 関東大震災から百年、政府は「朝鮮人虐殺は記録なし」との見解崩壊 9・4 辺野古軟弱地盤改良工事をめぐる、設計変更

を承認しなかった沖縄県の敗訴が最高裁で確定 9・7 元自民党の秋本衆院議員が洋上風力発電会社からの受託収賄容疑で逮捕 9・10 インドで開かれたG20サミットはロシアを名指しせず、核兵器による威嚇に反対する首脳宣言採択

9・13 第二次岸田再改造内閣が発足▽北朝鮮の金正恩総書記がロシア極東でプーチン大統領と会談 9・26 国連総会では中ロが米欧と激しく対立して閉会 △バイデン米大統領が全米自動車労組のスト現場を訪問、組合員に支持を表明

9・27 水俣病未認定患者訴訟で大敗裁が128人 全員を救済を命じた▽長崎県対馬市長が核のゴミ最終処分場文献調査に反対表明 10・3 米下院議長解任決議採択、米国史上初めて 10・5 連合の定期大会で岸田首相が政府代表の挨拶

ここに自信と確信をもち国労運動を守り抜くためお互いに奮闘しなければならぬ。そのためにも、あらゆる取り組みを全て組織拡大に結び付け組織拡大を年間闘争として引き続き取り組んでいく。

月一の要求を提出していく。本部闘争指示をはじめ、本部・本社の交渉を押し上げる地方・職場からの取り組みなど、「貨物協議会活動の強化」をお互いに確認し、取り組みを強化していく。

9月22日、宮里邦雄弁護士のお誘いで行われた宮里弁護士の講演を初めに聞いたのは、国労70周年の頃で、内容は「国労の歴史」についてだったと記憶している。法律論だけでなく運動論も多く語られ、弾圧に屈せず団結して闘うことがいかに大切なことかを学んだ。また、別の場面では「JR採用の組合員は権利についての学習を強めてほしい」と強調されていた。

全国貨物協議会第38回定期委員会開催

全ての闘いを組織強化・拡大に結び付けよう！

全国貨物協議会は10月3日、東京都新橋の交通ビル地下会議室において、第38回定期委員会を開催し、委員の活発な討論により当面する活動方針を確立した。

新型コロナウイルス感染症の「5類」への移行に伴い通常の開催となった今定期委員会には、エリア代表をはじめ委員・来賓・傍聴者の出席の下、一年間の闘いの総括と職



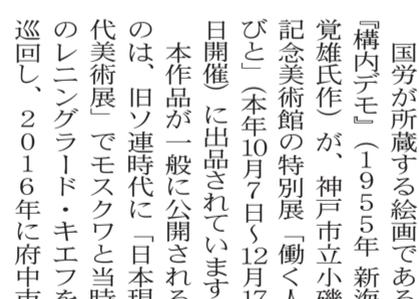
国労全国貨物協議会第38回定期委員会

と民主主義を守る闘い」など、全ての闘いを組織強化・拡大に集約していくことを確認しながら、全国の闘いを教訓とし、向こう一年間の闘う方針を確立した。

役員改選については、選挙の結果、無投票当選が確認された。【2023年度新役員体制】 議長 因泥 一(黒磯機関区) 副議長 眞田 敏幸(新鶴見機関区) 鈴木 郁夫(大宮車両所) 工藤 隆志(吹田機関区) 事務局長 橋本 翼(大宮車両所) 事務次長 森岡 英夫 (梶ヶ谷ターミナル)

定期委員会開催にあたり、全国貨物協議会・因泥議長より挨拶を受け、続く来賓挨拶では、国労本部を代表して木村副委員長より挨拶を受けた。また、国労本部からは辻業務部長も出席された。

2022年度経過報告及び2023年度運動方針(案)が提案され、議事に基づき、各委員から「組織強化・拡大をはじめとした「車両所の改修問題」「要員問題」「人事制度」「運転士養成」「教育問題」「シニア社員の労働条件」「24春闘勝利」「地方ローカル線問題」「貨物協議会運動の強化」について活発な討論により活動方針は補強され、因泥議長の集約を受け、全体の拍手で採択された。



『構内デモ』(1955年新海覚雄氏作)

国労所蔵の構内デモ(絵画)が公開中

国労が所蔵する絵画である『構内デモ』(1955年新海覚雄氏作)が、神戸市立小磯記念美術館の特別展「働く人びと」(本年10月7日〜12月17日開催)に出品されています。本作品が一般に公開されるのは、旧ソ連時代に「日本現代美術展」でモスクワと当時のレニングラード・キエフを巡回し、2016年に府中市

美術館の「画家・新海覚雄の軌跡」で貸し出されて以来となりませんが、東京以外では国内初公開となります。国労財産となっている絵画ですので、労働者文化活動の一環として、神戸市在住の組合員・OBはもとより、関西地区を中心とした多くの皆さんが折を見て鑑賞する機会をもつていただければ幸いです。(辻)



碑文を朗読する千々岩委員長

第51回国鉄原爆死没者慰霊式典(長崎式典)

被爆より78年を迎える8月9日、台風6号が接近する進路予報でJR及び市内を走る公共交通機関も始発より運転取り止めとなる計画運休が前日に発表され、長崎式典も止む無く当日の開催を見送ることとなった。その後、現地実行委員で議論の末、8月20日に規模を縮小して簡素に執り行うことを決定した。

職者の会、現地実行委員の13名が参列し厳かに執り行った。原爆が投下された11時2分に黙とうを捧げ碑文を朗読した後、現地実行委員会の長崎地区本部豊田委員長が挨拶のなかで、ロシアによるウクライナ侵攻が始まって1年半を迎え、諸外国でも核兵器への依存や共有、日本国内でも防衛費の増大など大変危惧するところであり、反戦・反核・平和運動を継続すると共に、今後も被爆者との対協運動の継続を強く訴えた。私たちがこれからも「核兵器廃絶と世界恒久平和」を強く訴え、今日まで苦しんでこられた被爆者の体験や平和への思いを今後後世へと継承することを再度、慰霊碑に誓った。

9月22日、宮里邦雄弁護士の御ぶ集いが行われた。宮里弁護士の講演を初めに聞いたのは、国労70周年の頃で、内容は「国労の歴史」についてだったと記憶している。

宮里邦雄先生を偲ぶ集い

国労と(一財)国鉄労働会館共催による「宮里邦雄先生を偲ぶ集い」が9月22日に2部構成で行われ、参加者一同で今年2月5日に逝去された宮里先生の功績を讃え、在りし日の宮里先生を偲んだ。

団結の尊さを胸に刻み 停滞する労働運動を活性化しよう

偲ぶ集いの第一部は新橋交通ビルで開催され、国労会館の佐藤正幸専務理事の進行で進められた。

佐藤専務理事の開会の挨拶のあと、逝去された宮里先生に対し1分間の黙祷を捧げた。

宮里先生の足跡を辿る「労働弁護士宮里邦雄 平和、そして団結」のビデオ上映後、主催者を代表して国労本部の松川聡委員長が「宮里先生は、1968年に国労弁護士に加わり、それ以降、反マル生闘争やスト権スト、JR採用差別事件をはじめとした労働紛争の解決に至るまで多大なるご尽力を賜った。とりわけ1987年の国鉄分割・民営化において、JRに採用されなかった1047名の不採用問題は、政治解決のあり方

をめぐり様々な意見の対立や組織の混乱もあったが、全国大会の壇上において国労常任弁護団の中心で指導にあたられた宮里先生から何度も『団結なくして勝利なし』『団結なくして解決なし』との叱咤激励をいただいた。宮里先生はこの言葉の意味を組合員全体で理解し合うことでやがて対立を克服し、総団結を取り戻すことにより23年間にわたった闘いに終止符を打ち、最終解決を勝ち取ることができた。先生の訴えは今も国労運動のなかに脈々と息づいています」と挨拶を行った。

追悼の言葉を同じ国労弁護団として闘ってきた、神奈川総合法律事務所副所長の福田護弁護士が行った。

「思い出を語る」では、元国労闘争団全国連絡会議議長

をめぐり様々な意見の対立や組織の混乱もあったが、全国大会の壇上において国労常任弁護団の中心で指導にあたられた宮里先生から何度も『団結なくして勝利なし』『団結なくして解決なし』との叱咤激励をいただいた。宮里先生はこの言葉の意味を組合員全体で理解し合うことでやがて対立を克服し、総団結を取り戻すことにより23年間にわたった闘いに終止符を打ち、最終解決を勝ち取ることができた。先生の訴えは今も国労運動のなかに脈々と息づいています」と挨拶を行った。

宮里邦雄弁護士は、1939年7月1日に大阪に生まれ、

第2部は汐留メディアタワーに会場を移し、参加者一同で宮里先生に献杯し、思い出を語り合いながらありし日のお姿を偲んだ。

宮里邦雄弁護士は、1939年7月1日に大阪に生まれ、



ビデオ上映

沖繩・宮古島で育った。米軍占領下の琉球政府立宮古高校を卒業し、琉球政府の国費留学生として東京大学に進学して司法試験に合格し、1965年に弁護士に登録して以来、労働事件一筋に、労働者のための弁護活動に取り組んでこられた。

昨年1月から闘病生活に入られたが、その直前まで、解雇、雇止め、労働条件の不利益変更、パワハラ、労災、不当労働行為など多くの労働事件を熱心に担当されていた。また、多くの労働組合の法律顧問として、集団的労使関係上の諸問題や組合員の生活問題について相談を受けてこられた。総評弁護団・日本労働弁護団の活動にも積極的に取り組まれ、2012年まで10年にわたり日本労働弁護団会長のを務められた。

担当した労働事件は数え切れず、労働者の権利闘争の歴史を刻んだ重要事件も多数に及ぶ。

官公労働者の労働基本権や政治活動の自由が争われた事件や採用内定取消が争われた三菱樹脂事件、1970年

代には沖電気整理解雇事件、1980年代には東芝府中人権裁判などを担当された。1987年の国鉄の分割民営化をめぐる採用差別や配属・配転・出向・昇進問題等の和解まで国労弁護団の中心となつて取り組み、2011

九州・四国本部合同組織・ローカル線対策会議開催

九州本部と四国本部は10月2日〜3日の1泊2日で、合同の「組織・ローカル線対策会議」を開催し、日田彦山線BRT視察を行いました。

労働者のための 弁護ひとすじ

宮里邦雄弁護士は、1939年7月1日に大阪に生まれ、

第2部は汐留メディアタワーに会場を移し、参加者一同で宮里先生に献杯し、思い出を語り合いながらありし日のお姿を偲んだ。

宮里邦雄弁護士は、1939年7月1日に大阪に生まれ、

担当した労働事件は数え切れず、労働者の権利闘争の歴史を刻んだ重要事件も多数に及ぶ。

官公労働者の労働基本権や政治活動の自由が争われた事件や採用内定取消が争われた三菱樹脂事件、1970年

代には沖電気整理解雇事件、1980年代には東芝府中人権裁判などを担当された。1987年の国鉄の分割民営化をめぐる採用差別や配属・配転・出向・昇進問題等の和解まで国労弁護団の中心となつて取り組み、2011

九州本部と四国本部は10月2日〜3日の1泊2日で、合同の「組織・ローカル線対策会議」を開催し、日田彦山線BRT視察を行いました。

九州・四国本部合同組織・ローカル線対策会議開催

九州本部と四国本部は10月2日〜3日の1泊2日で、合同の「組織・ローカル線対策会議」を開催し、日田彦山線BRT視察を行いました。

意見交換では「通勤、通学、交通弱者のために公共交通機関をBRT(ひこぼしライン)、添田駅〜彦山駅、夜明駅・日田駅は一般道、彦山駅〜宝珠山駅は専用道での運行を開始しました。

九州本部は10月2日に中央本部若元書記長に参加して頂き、四国本部と合同で日田彦山線BRTひこぼしラインを視察しました。発駅の添田駅を見学後、BRT専用道区間(約14km)を乗車しました。

平日でしたが中型バスはほぼ満席で、視察団は立席での乗車でした。

開業から約1ヶ月が経過しましたが、新聞報道によると9月24まで、1日平均乗車数が407人で延べ1万4千人が利用したとあります。しかし当日の乗客を見る限り地元の利用者は数人で、ほとんどが遠方からのBRT乗車目的の乗客と感じました。会社は「乗客の内地元4割、観光6割で、どこが特段増えた」ということはない。添田駅〜日田駅までの旅行者は増えていくことを認めています。

他社ではバス転換したものの数年後に路線が廃止された例もあり、BRTひこぼしラインが持続可能な交通手段となるのか九州本部は検証していきます。

九州本部 原田浩幸

投稿

九州本部と四国本部は10月2日〜3日の1泊2日で、合同の「組織・ローカル線対策会議」を開催し、日田彦山線BRT視察を行いました。

意見交換では「通勤、通学、交通弱者のために公共交通機関をBRT(ひこぼしライン)、添田駅〜彦山駅、夜明駅・日田駅は一般道、彦山駅〜宝珠山駅は専用道での運行を開始しました。

九州本部は10月2日に中央本部若元書記長に参加して頂き、四国本部と合同で日田彦山線BRTひこぼしラインを視察しました。発駅の添田駅を見学後、BRT専用道区間(約14km)を乗車しました。

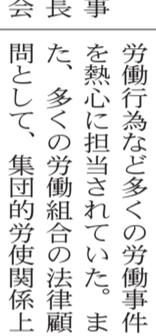
平日でしたが中型バスはほぼ満席で、視察団は立席での乗車でした。

開業から約1ヶ月が経過しましたが、新聞報道によると9月24まで、1日平均乗車数が407人で延べ1万4千人が利用したとあります。しかし当日の乗客を見る限り地元の利用者は数人で、ほとんどが遠方からのBRT乗車目的の乗客と感じました。会社は「乗客の内地元4割、観光6割で、どこが特段増えた」ということはない。添田駅〜日田駅までの旅行者は増えていくことを認めています。

他社ではバス転換したものの数年後に路線が廃止された例もあり、BRTひこぼしラインが持続可能な交通手段となるのか九州本部は検証していきます。

九州本部 原田浩幸

添田駅乗降場



添田駅乗降場

添田駅乗降場

添田駅乗降場

添田駅乗降場

添田駅乗降場

添田駅乗降場

添田駅乗降場

エリア本部執行部体制

北海道本部

第38回定期大会 9月10日

執行委員長 伊藤 正則

執行副委員長 岩村 儀一

書記長 島見 佳法

執行委員長 遠山 伸治

執行副委員長 高岸栄太郎

執行委員 山口 鈴彦

執行委員 能瀬 明

執行委員 能瀬 明

東北本部

第37回定期大会 8月19日

執行委員長 伊藤 隆夫

執行副委員長 渡辺 信之

書記長 常盤 達雄

執行委員長 植田 誠

執行副委員長 藤野 重信

書記長 大北 真也

執行委員長 立花 浩二

執行委員長 立花 浩二

関東本部

第38回定期大会 8月3日

執行委員長 植田 誠

執行副委員長 藤野 重信

書記長 大北 真也

執行委員長 立花 浩二

執行副委員長 藤野 重信

書記長 大北 真也

執行委員長 立花 浩二

執行委員長 立花 浩二

中部本部

第37回定期大会 8月27日

執行委員長 立花 浩二

執行副委員長 藤野 重信

書記長 大北 真也

執行委員長 立花 浩二

執行副委員長 藤野 重信

書記長 大北 真也

執行委員長 立花 浩二

執行委員長 立花 浩二

関西本部

第37回定期大会 8月27日

執行委員長 立花 浩二

執行副委員長 藤野 重信

書記長 大北 真也

執行委員長 立花 浩二

執行副委員長 藤野 重信

書記長 大北 真也

執行委員長 立花 浩二

執行委員長 立花 浩二

四国本部

第40回定期大会 8月30日

執行委員長 千々岩 隆

執行副委員長 古賀 正弘

書記長 西山 泰三

執行委員長 原田 浩幸

執行副委員長 水原 彰

書記長 萩原 弘司

執行委員長 福崎 彰

執行委員長 福崎 彰

女性部長

矢野 里美

女性部長 矢野 里美

女性部長 矢野 里美

女性部長 矢野 里美

女性部長 矢野 里美

女性部長 矢野 里美

女性部長 矢野 里美

女性部長

矢野 里美

女性部長 矢野 里美

女性部長 矢野 里美

女性部長 矢野 里美

女性部長 矢野 里美

女性部長 矢野 里美

女性部長 矢野 里美

女性部長

矢野 里美

女性部長 矢野 里美

女性部長 矢野 里美

女性部長 矢野 里美

女性部長 矢野 里美

女性部長 矢野 里美

女性部長 矢野 里美

女性部長

矢野 里美

女性部長 矢野 里美

女性部長 矢野 里美

女性部長 矢野 里美

女性部長 矢野 里美

女性部長 矢野 里美

女性部長 矢野 里美

女性部長

矢野 里美

女性部長 矢野 里美

女性部長 矢野 里美

女性部長 矢野 里美

女性部長 矢野 里美

女性部長 矢野 里美

女性部長 矢野 里美

女性部長

矢野 里美

女性部長 矢野 里美

女性部長 矢野 里美

女性部長 矢野 里美

女性部長 矢野 里美

女性部長 矢野 里美

女性部長 矢野 里美

女性部長

矢野 里美

女性部長 矢野 里美

女性部長 矢野 里美

女性部長 矢野 里美

女性部長 矢野 里美

女性部長 矢野 里美

女性部長 矢野 里美

女性部長

矢野 里美

女性部長 矢野 里美

女性部長 矢野 里美

女性部長 矢野 里美

女性部長 矢野 里美

女性部長 矢野 里美

女性部長 矢野 里美

女性部長

矢野 里美

女性部長 矢野 里美

女性部長 矢野 里美

女性部長 矢野 里美

女性部長 矢野 里美

女性部長 矢野 里美

女性部長 矢野 里美

女性部長

矢野 里美

女性部長 矢野 里美

女性部長 矢野 里美

女性部長 矢野 里美

女性部長 矢野 里美

女性部長 矢野 里美

女性部長 矢野 里美

女性部長

矢野 里美

女性部長 矢野 里美

女性部長 矢野 里美

女性部長 矢野 里美

女性部長 矢野 里美

女性部長 矢野 里美

女性部長 矢野 里美

女性部長

矢野 里美

女性部長 矢野 里美

女性部長 矢野 里美

女性部長 矢野 里美

女性部長 矢野 里美

女性部長 矢野 里美

女性部長 矢野 里美

女性部長

矢野 里美

女性部長 矢野 里美

女性部長 矢野 里美

女性部長 矢野 里美

女性部長 矢野 里美

女性部長 矢野 里美

女性部長 矢野 里美

女性部長

矢野 里美

女性部長 矢野 里美

女性部長 矢野 里美

女性部長 矢野 里美

女性部長 矢野 里美

女性部長 矢野 里美

女性部長 矢野 里美

女性部長

矢野 里美

女性部長 矢野 里美

女性部長 矢野 里美

女性部長 矢野 里美

女性部長 矢野 里美

女性部長 矢野 里美

女性部長 矢野 里美

女性部長

矢野 里美

女性部長 矢野 里美

女性部長 矢野 里美

女性部長 矢野 里美

女性部長 矢野 里美

女性部長 矢野 里美

女性部長 矢野 里美

女性部長

矢野 里美

女性部長 矢野 里美

女性部長 矢野 里美

女性部長 矢野 里美

女性部長 矢野 里美

女性部長 矢野 里美

女性部長 矢野 里美

女性部長

矢野 里美

女性部長 矢野 里美

女性部長 矢野 里美

女性部長 矢野 里美

女性部長 矢野 里美

女性部長 矢野 里美

女性部長 矢野 里美

女性部長